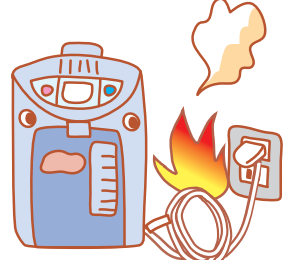
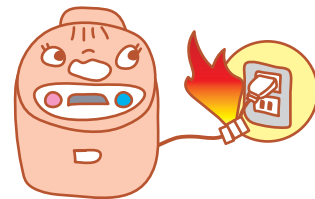
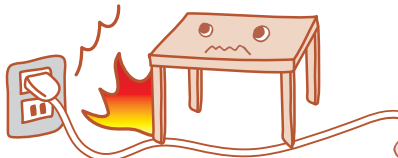
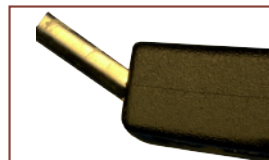
コードや配線器具の事故が多発しています！

こんな使い方していませんか？

コードを引っ張って抜く

ほこりや水分が付いたままにする

携帯電話機やスマホにかかわる事故が発生しています！

発熱や発煙、発火のおそれがあります！

焦げたコネクター

上に変形したコネクターの外観（上）
その内部をみたもの（右）

- 一度曲がってしまったコネクターは使用しない
- コネクターは接続の方向を確認してまっすぐに差し込む。斜めに無理に差し込まない
- 接続するとき、無理に力をいれない
- 汗や飲料水、ペットの尿など液体をコネクターにかけない
- コネクターに金属やごみなどを付着させない

リコール製品を使っていませんか？

お持ちの製品がリコール製品に該当していないか
NITE のホームページで確認してください。
http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php

・リコール製品の場合は、直ちに使用を中止して、事業者に連絡してください
・事業者が倒産などで連絡がとれない場合は、適切に処分をしてください

リコール製品はすぐに事業者へ連絡してね

未回収のリコール製品で事故が発生しています

経済産業省商務流通保安グループ
製品安全課製品事故対策室
TEL 03-3501-1707 http://www.meti.go.jp/product_safety/

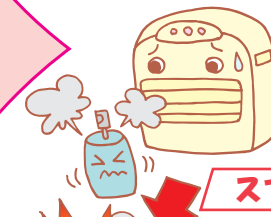
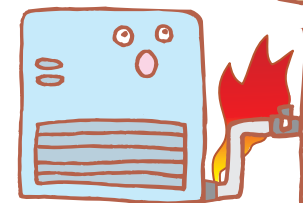
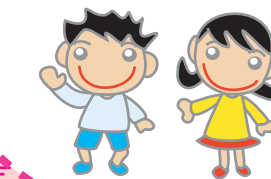
nite
NITE（ナイト）製品安全センターは、製品事故を調査・分析し、再発防止や安全な製品開発に必要な情報を発信している国の機関です。http://www.nite.go.jp/jiko/
NITE・製品安全センターリスク評価広報課 TEL 06-6942-1113

2015 年 10 月

11 月は製品安全総点検月間です

ついうっかりが思わぬ事故にならないように
冬 製品は正しく使いましょう

事故ナイトいいね

取扱説明書をよく読んで正しく使用しましょう

石油ストーブで死亡事故が多く発生しています!!

こぼれた灯油に引火して火災

事例

石油ストーブ付近から出火して、住宅を全焼し、１人が死亡した。
（2014年２月　香川県）

原因

石油ストーブの火を消さずにカートリッジタンクに給油した際、カートリッジタンクのふたの締め方が不十分だったために灯油がこぼれ、ストーブの火が引火したものです。

就寝中に一酸化炭素中毒

事例

石油ストーブをつけたまま就寝中、一酸化炭素中毒で死亡した。（2013年12月　島根県）

原因

密閉した室内で使用していたため、給気不足から不完全燃焼状態となって一酸化炭素が発生したものです。

ガソリンを誤給油して火災

事例

使用中の石油ストーブから出火し、1人が一酸化炭素中毒で死亡し、1人が重傷を負った。（2014年４月　兵庫県）

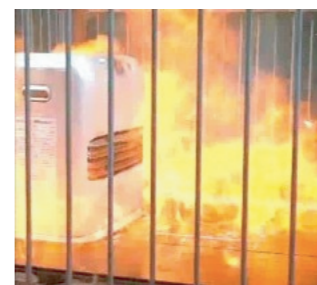
原因

ガソリンを灯油と間違って給油したたため、異常燃焼を起こして火災に至ったものです。

- 給油するときは、必ず火を消してください。カートリッジタンクのふたが確実に締まっているか確認してください。
- 就寝時はストーブを使用しないでください。
- 使用する際は、こまめに窓を開けるなど換気をしてください。
- 間違ってガソリンを入れると、異常燃焼を起こします。保管場所に注意してください。

スプレー缶が破裂して火災

事例

スプレー缶が破裂し、周辺を焼く火災が発生した。（2014年２月　青森県）

原因

石油ファンヒーターの近くに置いていたスプレー缶が加熱されて破裂し、ファンヒーターの火が引火したものです。

ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶が破裂して引火。（再現実験）

カセットボンベやスプレー缶などは、加熱されると、内圧が上昇して破裂・爆発し、噴き出た可燃性ガスに引火します。ストーブやガスこんろなど熱源の近くには置かないでください。

ゆたんぽで低温やけど

事例

ゆたんぽで低温やけどを負った。
（2014年１月　東京都）

原因

長時間ゆたんぽを使っていたため、低温やけどを負ったものです。

- 「低温やけど」は、ゆたんぽやこたつのほか、使い捨てのカイロなどでも発生します。同じ部位を長時間温めないでください。また、違和感や熱いと感じたら、直ちに使用を中止してください。
- 厚手のタオルや専用カバーなどで包んでいても低温やけどを負うことがあります。ゆたんぽは、就寝前に布団の中に入れて、暖まったら出し、電気あんかはスイッチを切ってください。

電気ミニマットで火災、死亡

事例

電気ミニマットとその周辺を焼く火災が発生し、１人が死亡して1人が重傷を負った。
（2013年３月　岐阜県）

原因

布団の中で、電気ミニマットと電気毛布を併用していました。そのためにこもった熱で電気ミニマットのウレタンフォームが劣化し、ヒーター線の位置がずれて重なってしまい、過熱して発火したものです。

- 電気ミニマットは就寝時の暖房器具として使用しないでください。また、ほかの暖房器具と併用しないでください。

電気ストーブに布団が触れて火災

事例

電気ストーブ付近から出火し、集合住宅の一室を全焼した。（2014年２月　岐阜県）

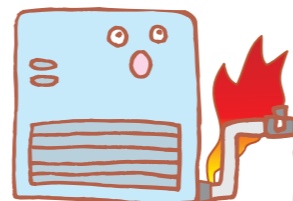
原因

電気ストーブをベッドの近くで使用していたため、布団がヒーターに触れて火がついたものです。

- 寝るときは、スイッチを切ってください。寝返りをうったときなどに、布団や毛布などがストーブに触れると、ヒーターの熱で火がつくことがあります。
- ストーブの近くに燃えやすいものを置かないでください。カーテンの近くで使用するのも危険です。

ガスファンヒーターが爆発

事例

ガスファンヒーターが爆発して周辺が焼け、けがを負った。
（2014年11月　大阪府）

原因

専用のガスホース（ガスコード）ではなく、取扱説明書で禁止されているゴム管で接続していたため、接続部からガスが漏れ、ファンヒーターの火が引火したものです。

- ガス栓とガス機器の接続は、ガス栓にごみなどが挟まっていないないことを確認してから、適正な接続具を使用してください。
- ゴム管での接続は、ガス栓の赤い線まで差し込んでゴム管止めをしてください。
- 使っていないガス栓は、閉栓カバーをかぶせるなど誤って開かないようにしてください。

電気こたつでやけど

事例

電気こたつの一部が溶け、足にやけどを負った。
（2014年３月　兵庫県）

原因

こたつ布団をこたつの中に押し込んで使用していました。そのため、ヒーター周辺の温度が上昇して反射板が変形し、ヒーターの放射熱によりやぐらが過熱されたものです。

- 電気こたつの中にこたつ布団や座いす、座布団などを押し込まないでください。
- 洗濯物を乾かして火災になった事例もあります。
- 電源コードをこたつの脚で踏んだり、折り曲げたりすると断線の原因になるので注意してください。

除雪機に巻き込まれて死亡

事例

使用中の除雪機の下敷きになって死亡した。（2013年１月　長野県）

原因

後退時の巻き込みを防止する装置と事故防止のセーフティスイッチを外していました。そのため、除雪機が後退しているときに転倒した際、巻き込まれたものです。

- 保護装置は常に作動する状態で使用してください。
- 除雪機に詰まった雪を取り除くときは、エンジンが完全に止まったことを確認してから雪かき棒などで行ってください。
- 使用時は周囲に人がいないか確認してください。

このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いするものです。